

主体的に学ぶ力を高める単元構想の在り方

矢出 大介

私のこれまでの総合的な学習の時間（※以下総合とする）の実践では、子どもが課題に向かって探究し、その学びの過程において、出会い、体験を大切に行ってきた。その中で、子どもの意欲は高まっていることを実感できたが、子どもがどのようなキーコンピテンシーを身に付けているのかが不明確であった。昨年度は、公益財団法人日立財団と連携して、資質・能力の育成、発揮するトレーニングプログラム、それを応用した探究的な学びを通してキーコンピテンシーを高めることができたかどうかを検証し、自律的に行動する能力が高まったことが分かった。しかし、学びに向かう力の高まりがあまり見られなかった。そこで、今年度はキーコンピテンシーの中でも主体的な学びを高める単元構想の在り方を検証する。

キーワード：主体的な学び、キーコンピテンシー、資質・能力、映像制作

1. 研究目的

新学習指導要領では、外国語活動が外国語となり、移行期間中に限り、15時間までなら総合を外国語に使用してよいことになった。前回の改訂においても小学校の総合の時間が105～110時間から70時間に削減された。各教科の授業での言語活動を総合とつなげ、探究的な学びを通して主体的に学ぶ力を高めることが期待されていた。しかし、本県の総合の時間では、この力の高まりを教員も子どもも実感できていないことが現状である。そこで、今回の研究において、主体的に学ぶ力を高める単元構想の在り方について明らかにし、本県の教員に広めていく。

1. 1. 研究仮説

探究と伝え合う活動を3度行い、最後に自分たちの学びの成果物として映像作品の完成を目指す単元を実践する。友だちと1つの目標を目指して繰り返し、学びなおすことで主体的に学ぶ力を高めることができると仮定した。

1. 2. 単元構想

全55時間 和歌山城PRプロジェクト

つかむ	地域のことを調べて、伝えたいことを考える	時間 ②
	自分たちで映像を撮影する	④
探究	撮影のプロや劇団員と出会い、どのように映像制作をしていくのか考える	⑨
まとめる 伝え合う	撮影のプロや劇団員から学んだことを活かして1人ずつ自分の伝えたいことを短い時間の映像作品にする	②
	それぞれの映像作品について話し合いながら、5分間の映像作品に必要な場所や内容について話し合う。	②

探究	和歌山城学芸員さん・忍者・動物園・天守茶屋の方々に来て話を和歌山城の魅力を聞く。		④
	劇団Zさん・映画監督K先生と一緒に台本を制作する。		②
まとめる 伝え合う	取材活動・現地調査をしながら撮影をしていく①	話し合っって映像を5分にまとめていく①	⑮
探究	取材活動・現地調査を行う		④
まとめる 伝え合う	取材活動・現地調査をしながら撮影をしていく②	話し合っって映像を5分にまとめていく②	⑤
いかす 振り返る	完成した映像作品をより多くの人に見てもらえるようにどうすれば良いか話し合い、活動する		④
	1年間の活動を振り返る		②

映像制作をすることを単元に位置付けた理由は、自分たちの学んだことが映像として表現することができ、映像があるためそれぞれの考えを容易に共有しながら話し合うことができるからである。子どもたちは、友だちと考えを共有しながら何度も学び直しをすることができることで、学びの深まりを実感していく。つまり、主体的に学ぶ力を高めることができると考えた。

子どもたちの意欲を持続・高めるためのしかけとして、多くの人との出会いを単元に位置付けた。その中でも、劇団Zさんと映画監督のK先生に子どもたちの学びの伴走者となって、話し合いや学び直しにおいて考えを深めるために必要な体験や知識を与えてくれるように伝えた。これにより限られた時間で、教え込まれて学ぶのではなく主体的に学び、目標を達成できると考えた。

2. 研究方法

単元の実施前後でクラス全員にアンケートを実施し、その結果を分析することで成果と課題を検証した。事前のアンケートでは以下のような結果だった。

5F アンケート結果

	和歌山城PR活動する前	色んな大人と出会う前
Q1 身の回りをよく観察しているなことに気づくほうだ。	思う 3 あまり思わない 3 思わない 0	
Q2 身の回りの問題に気づき、周りの人といっしょに解決できるほうだ。	思う 1 あまり思わない 3 思わない 2	
Q3 新しいことを勉強したり、知らないことを初めて見たり、聞いたりするとき、「なぜだろう」「どうしてそうなるんだろう」と考えるほうだ。	思う 3 あまり思わない 1 思わない 2	
Q4 身の回りに問題を見つけたとき、その解決方法を自分で発想し、それを大切にするほうだ。	思う 2 あまり思わない 1 思わない 3	
Q5 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、「もっと知りたい」と思うことについて人に聞いたり、自分で調べたりするほうだ。	思う 2 あまり思わない 1 思わない 3	
Q6 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジしたりする時、自分で目標をたて、目標を達成するためにどうしたらいいかを自分で考える方だ。	思う 2 あまり思わない 2 思わない 2	
Q7 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、失敗しても何度でもやり直したり、よろよいやり方を考えてあきらめないでやろうとするほうだ。	思う 3 あまり思わない 1 思わない 2	

6F アンケート結果

	和歌山城PR活動する前	色んな大人と出会う前
Q1 身の回りをよく観察しているなことに気づくほうだ。	思う 1 あまり思わない 6 思わない 1	
Q2 身の回りの問題に気づき、周りの人といっしょに解決できるほうだ。	思う 2 あまり思わない 5 思わない 1	
Q3 新しいことを勉強したり、知らないことを初めて見たり、聞いたりするとき、「なぜだろう」「どうしてそうなるんだろう」と考えるほうだ。	思う 5 あまり思わない 3 思わない 0	
Q4 身の回りに問題を見つけたとき、その解決方法を自分で発想し、それを大切にするほうだ。	思う 2 あまり思わない 4 思わない 2	
Q5 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、「もっと知りたい」と思うことについて人に聞いたり、自分で調べたりするほうだ。	思う 2 あまり思わない 5 思わない 1	
Q6 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジしたりする時、自分で目標をたて、目標を達成するためにどうしたらいいかを自分で考える方だ。	思う 3 あまり思わない 5 思わない 0	
Q7 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、失敗しても何度でもやり直したり、よろよいやり方を考えてあきらめないでやろうとするほうだ。	思う 2 あまり思わない 5 思わない 1	

学びに向かう力の高まりを検証するために必要な項目であるQ4「身の回りに問題を見つけたとき、その解決方法を自分で発想し、それを大切にするほうだ。」Q5「新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、「もっと知りたい」と思うことについて人に聞いた

り、自分で調べたりするほうだ。」において、思わない、あまり思わないが多いことが分かった。

初等中等教育分科会「2. 新しい学習指導要領等が目指す姿」(H29年9月14日)では学びに向かう力、人間性等を以下のように記している。

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
- ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。

3. 授業の実際(単元の実際、活動の実際等)

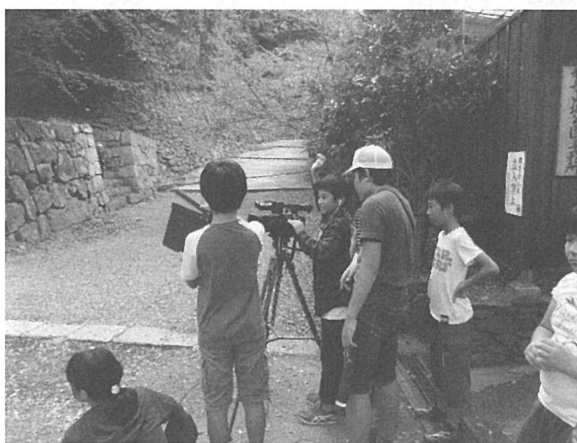


図1 映像撮影の様子



図2 取材活動の様子

本格的な機材や撮影のプロ・劇団の人と出会うことで、子どもたちは映像制作に主体的に取り組むと考えていた。しかし実際の授業においては、撮影や演技の技術的なことではなく、伝えたいことが明確になることが重要であった。子どもたちは和歌山城で出会った忍者に魅力を感じていた。忍者の魅力を多くの人に伝えたい。この気持ちが子どもたちの映像制作の意欲を高めていった。(図1・2)

忍者に会いたい気持ちから子どもは、何度も和歌山城に調べ学習に行った。自分たちの撮影した映像を忍者に見てもらい、好評をしてもらった。その意見を大事にし、自分たちで何度も映像を見ながら話し合う。

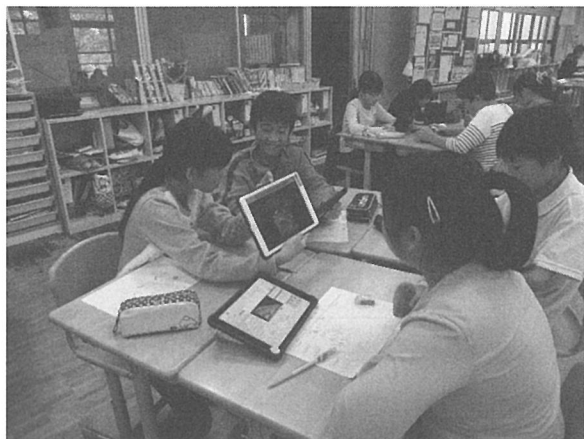


図3 話し合いの様子



図4 クレイアニメーション作りの様子

映像制作を進めていく中で、自分たちの思いを分かりやすく伝えたい気持ちが高まった。忍者との出会いによって意欲を高めることができたので、図工の時間を活用して日本でクレイアニメーターの先駆者であるI先生にクレイアニメーションを教えてもらった。(図4)

和歌山城で取材活動・現地調査・撮影をし、自分たちの考えを共有するために撮影した映像を見ながら話し合いを繰り返し行いながら、子どもたちは映像制作を進めた。

自分だけでは解決できない問題を友達と一緒に考えて乗り越えていく。それでも解決できない問題は大人と一緒に考え、乗り越えていった。

4. 授業の考察

授業での発言の多くが、子どもが自ら調べて分かった事実・撮影した体験から感じたことを伝えている。また、分からなかったことを何度も調べて分かってしている。忍者を中心として、自分たちが好きになっ

た和歌山城の魅力を伝えようとしていた。

授業記録：撮影したシーンのについて話し合う

やえこ

昔の忍者のカッコよさだけでなく、私たちが会った忍者さんの優しさが分かる気がする

たいち

和歌山城動物園にたくさん動物がいることが分かっていいや

ゆうじ

もっと和歌山城動物園の特徴を伝えたほうがいいと思う

やえこ

餌あげ体験やヤギの散歩のシーンを入れたらいいと思う。自分たちもしてみても楽しかったし、周りに人もたくさんしていたし

ゆうじ

御はし廊下から見た和歌山城もきれいだった

やえこ

石垣の刻印を探すのも楽しかったよね。学芸員さんにも教えてもらったし。やっぱり自分たちが好きになったことを伝えたほうがいいかも

やえこの発言を受けて、体験をもとに問題を解決しようとそれぞれが発言をつなげていくところから、「Q4」「Q5」についての向上しているように感じる。

やえこは日ごろから和歌山城によく通っている。台風の後も和歌山城のことが心配で調べに行っていた。多くの人が訪れずっと和歌山の中心に位置している和歌山城の魅力とは何かを考えている。その中で、歴史と和歌山城を支える人たちが魅力ではないのかと考えることができています。学校の大切にしている伝統とは何かまで考えることができています。

ゆうじは幼少期に何度も動物園に行った楽しい記憶があった。そのためか、和歌山城調査のほとんどの時間を動物園に費やした。幼少期と小学校高学年になってから感じた魅力をつなげて考えていた。自分たちの生活と体験・撮影を話し合いにつなげている。これから学びに向かう力の高まりが分かる。

(この授業における成果のまとめ)

①	子どもたちが何度も和歌山城を散策したことで好きになり、その思いを多くの人に伝えたいという目標が共有できていたこと。
②	課題を自分のこととして捉えて、インタビューなどの情報収集をし、整理・分析などの経験を繰り返し行った。そのことで、それぞれの児童が事実から考えをもつことができたこと。
③	子どもたちが話し合い撮影した映像について、和歌山城を支えている忍者から指摘をもらえた。そのことで、必然性をもって、調べ学習・撮影にもどることができた。

事後のアンケートでは以下のような結果だった。

5F アンケート結果			
Q	和歌山城 PR 活動をしてみて 色んな大人と出会って		
Q1 身の回りをよく観察している人なことに気づくほうだ	思う あまり思わない 思わない	5 1 0	
Q2 身の回りの問題に気づき、周りの人といっしょに解決できるほうだ	思う あまり思わない 思わない	2 3 1	
Q3 新しいことを勉強したり、知らないことを初めて見たり、聞いたりするとき、「なぜだろう」「どうしてそうなるんだろう」と考えるほうだ	思う あまり思わない 思わない	3 2 1	
Q4 身の回りに問題を見つけたとき、その解決方法を自分で発想し、それを大切にするほうだ	思う あまり思わない 思わない	2 1 3	
Q5 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、「もっと知りたい」と思うことについて人に聞いたり、自分で調べたりするほうだ	思う あまり思わない 思わない	3 1 2	
Q6 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジしたりする時、自分で目標をたて、目標を達成するためにどうしたらいいかを自分で考えるほうだ	思う あまり思わない 思わない	2 3 1	
Q7 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、失敗しても何度でもやり直したり、よろよいやり方を考えてあきらめないでやろうとするほうだ	思う あまり思わない 思わない	3 1 2	

6F アンケート結果			
Q	和歌山城 PR 活動をしてみて 色んな大人と出会って		
Q1 身の回りをよく観察している人なことに気づくほうだ	思う あまり思わない 思わない	6 2 0	
Q2 身の回りの問題に気づき、周りの人といっしょに解決できるほうだ	思う あまり思わない 思わない	3 5 0	
Q3 新しいことを勉強したり、知らないことを初めて見たり、聞いたりするとき、「なぜだろう」「どうしてそうなるんだろう」と考えるほうだ	思う あまり思わない 思わない	7 1 0	
Q4 身の回りに問題を見つけたとき、その解決方法を自分で発想し、それを大切にするほうだ	思う あまり思わない 思わない	2 6 0	
Q5 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、「もっと知りたい」と思うことについて人に聞いたり、自分で調べたりするほうだ	思う あまり思わない 思わない	4 4 0	
Q6 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジしたりする時、自分で目標をたて、目標を達成するためにどうしたらいいかを自分で考えるほうだ	思う あまり思わない 思わない	4 4 0	
Q7 新しいことを勉強したり、何かにチャレンジするとき、失敗しても何度でもやり直したり、よろよいやり方を考えてあきらめないでやろうとするほうだ	思う あまり思わない 思わない	4 4 0	

5. 成果と課題

成果

大人と出会いながら友だちと共に探究と伝え合う活動を3度行い、最後に自分たちの学びの成果物として映像作品の完成させる単元をとおして学びに向かう力を高めることができた。実践を終えた後、「何度も撮影をすることで自分たちが伝えたい映像作品を完成する

ことができた。」「和歌山城の魅力を考えることで和歌山城は多くの人の思いで建っていることが分かったし、自分もがんばろうと思った。」と感想を書いている子どもがいた。子どもの感想やアンケート結果からも単元を通して学びに向かう力が高まっていることが分かった。

課題

アンケート結果において5Fよりも6Fの方が全体的に結果の向上が高かった。これは、6Fは昨年度も総合的な学習の時間にキーコンピテンシーの高まりを意識した単元を実践していたからだと考える。その中で、多くの大人と出会い、その大人と向き合うことで自分たちの学びを深めることができると実感していたからである。今回の出会いも5Fよりも6Fの子どもたちの方が見通しをもって学ぶことができていた。(図5、図6) そのため、学びに向かう力などキーコンピテンシーを高めるためには、1年間だけの実践では効果はあまりないと考えている。そのため学校全体でカリキュラムデザインをしていくことの必要性があると考える。



図5 K先生と撮影の練習



図6 劇団Zさんと演技の練習

参考文献

田村 学(2015)「授業を磨く」東洋館出版